

三木市ユネスコ協会

2006. 10. 27発行

会報誌・第3号

発行者

三木市ユネスコ協会

〒673-0492

三木市上の丸町10番30号

三木市教育委員会生涯学習内

TEL:0794-82-2000 内線 3541



ユネスコ運動は心の美しさ



三木市長

藪本 吉秀

三木市ユネスコ協会顧問

三木市ユネスコ協会の皆様方には、日ごろから、あらゆる場において、地域社会づくりにご貢献をいただいておりますことに、市を代表し御礼申し上げます。

書き損じはがきの回収を資金源とした世界寺子屋運動への参加を中心に、世界遺産保護活動への協力、菜の花エコプロジェクトをはじめとする環境保護活動など、現在の社会が抱える大きな課題に熱心に取り組まれていることは、大きな意義があり、まさに皆様方の心の美しさが表れているものであると思います。

また、地域のさまざまな機関や団体と連携しながら活動し、お互いに地域と密着しながらの発展に努められようとされています。このような皆様方の姿勢は、地域の発展には欠かせないものであります。

三木市では、「日本一美しいまち三木」をめざして、スローライフなまちづくりを進めようとしています。この「美しい」とは、見た目の美しさだけではなく、まちにおける内面の美しさも意味しています。お一人おひとりの生活や考え方は異なっていますが、お互いに尊重しながら「美しさ」という目標を持つことによって、穏やかで、ほほえましくて、憩えるまちづくりを目指せるのではないかと考えています。

異なった文化や思想を理解し、相互に認め尊重し、協力しあい、共に生きる平和な地域社会を作るというユネスコの役割は、美しいまちをめざすことに通じるものだと思います。三木市がこのようなまちづくりを進めようとするなかで、皆様方の活動は心強いかがりです。

最後になりましたが、会員の皆様方のこれからのご活躍により貴協会の益々のご発展を期待しております。

第3回三木市ユネスコ協会総会開催

講演：地球温暖化防止

「わたしたちにできること、あなたにできること」

講師：NPO法人ワット神戸会長、津田久雄氏



去る5月27日(土)に第3回三木市ユネスコ協会総会が開催されました。

ご出席いただいた来賓の方々のお言葉に、「物溢れた世にあって、幸せとは人の為に尽くす、地域のために尽くすということなのでは」「心の貧困を感じる」「グローバルな視点と地域を見つめる視点をもつことの大切さ」など聞かれました。

総会后、NPO法人ワット神戸の会長、津田久雄氏の講演会が開かれた所、多くの方のご参加をいただき、環境問題への関心の深さをあらためて感じました。

テーマは「わたしにできること、あなたにできること」で、具体的な事例をご紹介されながらのそのお話には数多くの話題がありました。

広報委員会 山中みどり



専門委員会報告1「環境委員会」
『菜の花エコプロジェクト』
ついに菜種210kgを収穫、そして75kgの油を得る！

昨年スタートした北はりま地域教育推進委員会の『菜の花エコプロジェクト』
三木市ユネスコ協会は、環境問題取り組みの一環としてこの事業を側面から支援してきた。
そして8月下旬ついに菜種油が精製される段階までに。ここに、その行程を振り返ってみたいと思う。

2005年10月……種まき開始 ～ちょっと、つめて蒔きすぎたなあ……～

細川町の田んぼを借り、苗床をつくって種まきを開始。
市内の小学生親子約100人と推進委員やユネスコメンバーが参加。
1週間を過ぎると、芽が出始めて、日増しに出るわ！出るわ！のぎっしり。つめて蒔き過ぎなり！

2005年11月中旬……借り受けた市内の休耕田5箇所(計30a)に苗を移植

①志染町細目 ②細川町金屋 ③口吉川町殿畑 ④吉川町前田 ⑤別所町東這田 に苗を移植。いずれも幹線道路沿いである。諸事情で少々苗が小さいが、大きくなれよ！と愛情をこめて植える。

2006年3月……栽培地に看板を作って立てる

『菜の花エコプロジェクト』には色々なメッセージが託されている。その分できるだけ、多くの方々に知って頂こうと、親子で看板作りに取り組む。小学生から募集した絵をもとにコンパネ(180×90cm)に、菜の花、虫類、虹などをペインティングし、田んぼの脇の目立つところへドカンと設置。この作戦があたり、各方面の人から“見たよ”“いいね”などの反響あり。

2006年4月……菜の花開花 ～三木の春を彩る～

冬の寒さにもめげず4月頃からどんどん成育し、苗という苗すべてが美しい花をつける。黄色いじゅうたんはひと昔前の日本の光景を彷彿させる。(菜の花コンサートをしてもいいなあ……)

2006年6月……菜種の収穫 ～しんどいけれど、大地と共にある温もりを体感する～

菜の花はいつの間にか散り、鞘を付けた菜の花畑はほのかにピンクめいて枯れ、麦秋ならぬ菜秋？の景色。再び小学生親子の出番。鎌を持った農作業スタイルも宜しく、緊張感を持って、いざ刈り取り。以外や、とてもスムーズに茎がカットできる。稲刈りよりラクチンと知る。思いのほか簡単に作業は進み、とりあえずそのまま放置。

その後、連絡手順の関係上、子どもたちへの声かけは無理と判断して、推進委員会の岩永委員長、橋本副委員長さん方がコツコツと種の収穫。残るは細川町と口吉川町だけになった頃、突然“天気予報によると、明後日が雨のようなので、明日脱穀する！”とユネスコメンバーにも召集がかかる。駆けつけた7人は、田んぼに刈り取られたままの菜の花を青いビニールシートを敷いて集める。しかし、茎の上部の鞘はかなり熟していて、種ははじけて自然落下する。ああ、もったいない！と思いつつ各人が作業に専念。千羽こぎで種を茎から離してゆく人、あるいはシートの上で竹でしごいて種を取る人、種を袋につめる人、茎をたばねる専属の人と……それぞれ臨機応変に手作業をすすめてゆく。それにしても暑い！素人集団の作業人としては、楽しいけれど暑さとしんどさにいささか参りつつも大奮闘！終わり無き作業のごとく思いながらも誰一人グチは言



わず、根をあげない。さすが教育に燃える人、環境問題に関心を持つ人達だ！そして、“農業は天気とも勝負”ということがこんな小さな経験でよくわかったのだった。うす暗くなるまで作業が続き、“夕べに星を仰いで帰る”を経験する。

後日、「種は210キログラム収穫できた」という報告をうける。

2006年8月初旬……いよいよ油絞り

さあ、次は肝心かなめの油絞り。推進委員会の委員長が各方面へ問い合わせた結果、このスケールに見合った絞る工場は滋賀県愛知郡にあるとわかる。8月に入ってすぐ、委員7人が工場見学かねて、種をもちこむ。昭和28年から操業している油絞り会社は、着くなり香ばしい油の香りが漂い、委員たちは、古めかしい機械や雰囲気、妙に懐かしさや温かみを覚えて興奮する。責任者から説明を受けつつ、聞き漏らすまいとメモをとる人、写真をとる人、と役割分担は自然と実行に移される。

そして、3週間後まっさらな缶に入った70リットルの三木ブランドの純正菜種油が滋賀県から到着。副産物の油かすと共に。

2006年8月下旬……『菜の花エコプロジェクト』パネル展示開催 ～みつきいホールにて～

北はりま地域教育推進委員会は、みつきいホールを会場に、菜の花エコプロジェクトの展示会を行う。これまでの行程を写真と解説でつづり、油と油かすの現物展示も。来場者には油かすを分けてあげたり、菜の花の種をさしあげる。聞くところによると、この油かすは肥料としても上質で、静岡県のお茶畑では重宝されているとか…またガーデニングにも最適と聞く。

夏休み中だったので『菜の花エコ』に関した親子連れも訪れて、取り組みを振り返りつつ成果を確認する。およそ150人が来客。偶然にも100番目は蕨本市長であった。



油絞りというメインのプログラムがおわり、菜の花エコも次の段階へ！

今後の予定

- ・ 菜種油を使った料理教室（11月12日）
- ・ 菜種油で走るエコ・バスツアー（未定） 行き先…コウノトリ公園
- ・ 販売 油1缶（1ℓ）…1500円 油かす（5kg）…300円

副会長・環境委員会 芝 美代子

竹炭づくりへの挑戦！

お家に竹製品がありますか？ わりばし、菜ばし、の「はし」はあるでしょう。

50年ぐらい前までは、家庭にある「ざる」や「かご」は竹製品でした。稲木などの農業資材に、家を作るときの土壁の「しん」に、竹垣に、……と竹は使われてきました。

現在、そのような竹の需要はなくなり、竹やぶは荒れています。そんな見向きもされなくなった竹を炭にかえ、炭として利用しようとする取り組みです。竹炭は、脱臭剤、ろ過材として使われ、副産物の竹酢液は害虫駆除や肥料として使われます。

「竹炭づくり」も「菜種づくり」と同じで、初めての取り組みですが、少数ながら有志の方々が積極的に取り組まれています。取り組まれている先人の後に学びながら進めます。「温故知新」、「よきふるさと三木を次代へ」の一助になればと思っています。

専門委員会報告2「青少年委員会」

「ネパールを知ろう！体験しよう！」を振り返って

7月1日(土)、ネパール人ゲスト3人をお迎えして、小学生27名とその保護者の方達と異文化交流の機会を持ちました。企画の段階でゲストの方とお会いするうちに、今まで未知の国であったネパールとその国の人々と文化を知ることができ、良い経験をしました。

当日は、ゲストの方によるスライド発表-クイズを交え、大変興味深いものでした。保護者の皆さんもじっとスクリーンを見ながら、耳を傾けておられました。アイスブレイクゲームでは、子どもたちはあいさつ、自己紹介をネパール語でチャレンジしました。そして、地元の子どもたちに人気のある箱で作る手作り紙芝居-即興で物語(ペットや、好きなことなど)を作り、絵を描き、ゲストの方やお友達に発表しました。その作業を通じて会話が更に広がりました。出来上がった作品にはサインを交換し、活動内容を家族の皆さんにお伝えするよう持ち帰りました。言語、文化、宗教が違っていても、心を開いて向き合うことで、お互いを少しでも理解しようとする気持ちが生まれてくるのだと実感しました。また、異国で生活されているゲストの方も私たちと交流する機会を持ち、心強く感じたと喜んでおられました。このようなイベントを通じて、子どもたちが広い視野のもと柔軟な考えを持つ人に成長すればと思います。


体験の感想

はじめネパールがどんなところか知らなかったけど、いろんな話が聞けて楽しかった。説明してくれた人はすごく日本語が上手で、すごいなあと思った。 **長野若葉(小4)**

ネパールに 字が読めない人がたくさんいる話を聞いて、少しびっくりし

ました。もし私が字が読めなかったら、すごく困るし大変だと思います。ネパールのきれいな山の写真を見て日本の山とは全然違うと思いました。食べ物も手で食べたりすると聞いてなぜ、スプーンとかフォークを使わないのか不思議に思いました。最後にもらったアメは日本のアメと全然違う味がしました。 **長野涼花(小6)**

ユネスコ子供キャンプの感想

8月7日、8日、9日の3日間の日程で伊丹市立野外活動センター(三田市)で行われたユネスコ子供キャンプの感想文を掲載させていただきます。


キャンプの感想
志染小5年 岡田 裕太

ぼくは、八月七～九日、ユネスコのキャンプへ行きました。そこでは、世界の問題やドイツのことなどいろいろなことを学びました。

キャンプでは、皆、あだ名を付けました。ぼくのあだ名は、「ゆうた」でした。

主な行事は、ハイキングやキャンプファイヤーなどでした。ぼくが一番楽しいと思った行事はキャンプファイヤーでした。ハイキングの山頂では、かわら石というかわらに願いを書いて輪っかに投げて入れるというものをやりました。ぼくは班で一番早く輪っかに入れました。投げる位置から輪っかまで三メートルぐらいで輪っかの大きさは五十センチぐらいでした。

ハイキングの中には、いろいろな問題の書いてあるかんばんを解いていくといくゲームをしました。楽しかったです。

ユネスコキャンプに参加して
自由が丘小4年 角田 直斗

ぼくが、ユネスコキャンプで一番楽しかったことは、キャンプファイヤーです。

いろんな県から来た人たちと火をかこんで歌を歌ったり、ゲームをしたりして楽しい夜をすごしました。

次に楽しかったのは、みんなでごはんを作っていっしょに食べたことです。

ホットドック、野菜のカレーライス、そばメシをおいしくおなかいっぱい食べました。

自然のけしきを見ながら山のぼりをしたり、ひろった石に色をぬって絵を描いておみやげにしたりしました。

いつものせいかつとくらべて、不自由なことや不便なことが多かったキャンプでしたが、長い夏休みの中で、ぼくにあってきょうなたいけんができてよかったです。

また来年も友達をさそって参加したいなと思います。

ユネスコキャンプの思い出 志染小4年 森田 圭亮

8月の7日、8日、9日にユネスコキャンプに行きました。最初にあった時は、「この人、だれだろう。大西洋ってどう言う意味？」と、思いました。でも知らない人と話しをしたら、友達になりました。名ふだを作って、みんなの名前が分かりました。トモとあいしゃしか名前をわすれたけど、みんなかんじのいい人でした。夜食はみんなで協力して作りました。まきわりは、おもしろかったけど、ちょっとこわい所もありました。わけは、おのが手くびの前に来たからです。火をつけようとしても、なかなか火がつかせませんでした。五分ぐらいしてやっと火がつかしました。夜食は、夏野菜カレーでした。みんなで夜食を食べたら、おいしかったです。夜食を食べた後、体育館に行きました。

ドイツの人が来て、問題をみんなにだしました。みんなの問題にグーとパーで答えました。

ぼくは、大西洋の最後の人になりました。でも、後少しの所で問題をまちがえてしまいました。

山小屋に帰った後、パジャマにきがえてねました。

2日目の朝は、外で神戸体そうをしました。そのまま、朝食作りをしました。サンドイッチを作りました。

これは、自分の自由でした。朝食が終わった後、みんなのお皿を洗いました。お皿を洗った後、体育館に行きました。

ゲームをして、山へ登りに行きました。山登りはとてもきつく、帰りしは、あと少しで足をくじく所でした。体育館ですいかわりをして、大当たりでした。すいかを食べた後、シャワー室に行きました。シャワーをした後、山小屋にもどって、夜食の集日をしました。夜食はそばめしを作りました。

夜食を食べた後、キャンプ場に行きました。そして、キャンプファイヤーをしました。

キャンプファイヤーをした後、山小屋に行ってねました。

三日目の朝がきました。三日目の朝食はホットドックをつくりました。ホットドックを食べた後、体育館に行つてしゅうりょう式をして、バスにのって帰りました。三日間とても楽しかったです。

ボランティアスタッフとして参加して 東中 閑哉

『夏休みにはユネスコの子供キャンプに参加してね。』と、春頃から母に言われていた。幼いころからキャンプには何十回も参加しているような僕なので、全く知らない人達と交流するのは慣れていて楽しみだったのだが、今回はキャンパーではなくスタッフということだったので複雑な気分だった。

スタッフとなると初めてで、何をすれば良いのか全くわからなかったが、とりあえず任された仕事はちゃんとこなしていこうと考えていた。最初ハンドブックを見た時は「使い隊」という明らかに肉体系の仕事だと思い、頑張らなきゃという気持ちと、重大な仕事じゃなくてホッとしていた。しかし、スタッフの話し合いの時に「使い隊」から「カウンセラー」に変更になった。ユネスコのことなんか全くわからない僕がなぜ「カウンセラー」になったかはわからないが、この変更には何か期待みたいなものを感じたので、僕も僕なりに頑張ってみる気になった。

キャンプとしては特に重大な問題も起きなく、みんなキャンプを楽しんでいたと思う。そしてなにより子供達が「チーム」になって色々遊んだり作ったりでき、子供達の中で仲間意識というか「チーム」という意識がもてたんじゃないかと思う。

僕が現在通っている自由学園というところでは、とても「チームワーク」を大切にしている。学校では自分達のことは自分達でやっており、寮をはじめ色々なところで生徒自力を出して、いつも僕らに要求されたのは「チームワーク」ということだ。例えどんなに一人一人が力をもっている「チームワーク」なしでは学校、良い社会を作ることは無理だと思っている。

今回ユネスコのキャンプに参加させてもらって思ったことは、スタッフ同士で「チームワーク」はとれていなかったかもしれないが、みんなとても楽しそうにやっていたし、最後の反省会では悪かったところをすべて出し、それに加えて未来への希望を話し合ったのはとても良いことだと思った。この話を来年のキャンプに活かし、「チームワーク」というのを大切にしたら確実にユネスコの青年達は良い力がつくと思う。これからのユネスコに期待している。

全国大会報告

「第62回日本ユネスコ運動全国大会（岩手大会）in花巻」に参加して

三木市ユネスコ協会理事 東中香代

去る6月3日から4日にかけて開催された表記の大会に有野の会長、小林志津子理事と共に参加した。大会テーマは「考えていますか となりのひとを」～平和と共生の明日に向かって～で、全国より335協会、1千人以上の参加があり、これまでで最も盛大な大会になったとの報告があった。

私の参加の動機は単純、開催地がめったに訪れるチャンスのない東北で、宮沢賢治、新渡戸稲造、高村光太郎などのゆかりの地、そして温泉で名高い町であることであった。参加者数の増加に影響少なからぬものがあったと思う。（事実、前日に花巻入りした小林さんと私は私的にも観光の面で心に残るよい旅となった。）発足後やっと3年目になった三木市ユネスコ協会で、新参加者が厚顔にもまるで代表のようにして多少居心地悪く加わったのだったが、だからこそユネスコを包括的視点から捉え、長く関わっておられる多くの方と交流を深められた機会は得がたいものがあつた。若い三木市ユネスコ協会の取り組みや現状を発信することもできた。

ユネスコ協会の前身、国際知的協力委員会が花巻市ゆかりのキリスト者、あの旧5千円札でも有名な新渡戸稲造の発案・運営でアインシュタインやキュリー夫人も加わって発足し、日本では同じ東北仙台市で始まったこと、私たちは国連教育科学文化機関とは別の、社団法人「日本ユネスコ協会連盟」のメンバーで「民間ユネスコ運動」すなわち「グローバルシンキング」「ローカルアクション」が原点であることも今更ながらにして知った。また花巻が生んだ偉人宮沢賢治は「世界ぜんたいが幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」と文学でユネスコの目指すものと同じベクトル上の考えを持つ人であったという。

開会式の壇上には文部科学省と外務省からも大臣の名代が立たれ、岩手県知事、花巻市長、中国と韓国のユネスコ協会代表、そしてユネスコ側の各代表も立たれ、協会への熱い思いが語られた。

大会のハイライト、基調講演は花巻市出身で前国際日本文化研究センター所長の山折哲雄氏による演題「文明の共存を考える」であった。氏が常々提唱されていることは知っていた。問題視されるいわゆる一神教の徒キリスト者である私は以前から氏の論には賛同できないところが正直多々明確で、エルサレムを訪れられたときのくだり、私がかつて聖地旅行で拙著に記した思いと180度違っている。であるからこそ、異なる立場や意見にも真摯に謙虚に耳を傾け、理解に努め、なお「平和と共生の明日に向かって」進まねばならない世界と、卑近な私たちの足元のことを思い、40年の信仰生活でも稀である日曜礼拝を犠牲(!)にして参加した大会での講演をしっかりと傾聴した。

シンポジウムでは興味深い、内容の濃いパネラーらのお話に時を忘れて聞き入った。日ごろ聞くことのなかった語り口でのそれぞれの思いは王敏先生の日本語の美しさ、深さ、児島仁顧問（前会長）のお人柄溢れるたおやかさとユーモア、そして米田伸次先生の問いかけがいかであれご用意された論点のすべてをその都度3点にまとめられる手法など、内容もさることながら個性溢れる発言の数々、そして会場からの尽きない質問やコメントに、浅学非才のただのおぼさんの私には十分に把握したりついていったりはできなかったけれどユネスコを中心のところを多角的に感じ取ることはできた。

過日三木市ユネスコ協会の総会でユネスコの歌「手に手をとって」を歌い、練習していたので2回もの斉唱の機会にはしっかりと歌えた（つもり）。

夜のレセプションでは岩手県立花巻農業高等学校鹿踊部による「花農春日流鹿踊」が披露された。ちょうど前日宮沢賢治同心屋敷を見学した際、校内のごく近くでトレーナー姿の熱心な練習風景を目の当たりにしていたので、15キロもの衣装を着けての本番は圧巻で、堪能した。お土産物屋の袋にもこれが印刷されていた。また、食卓では来年の全国大会開催地山口のユネスキャンたちと一緒にあった。パーティーのメニューにすいとんが出たのは驚きであった。聞くところによると、栽培種ではない「みず」なる山菜がこの季節この地方にだけ出回るといふ、その大皿がデンと置かれてもいた。

また2日目の分科会では私たち3人は世界寺子や運動「すべての人に教育を」に参加した。（他には世界遺産活動「世界遺産と地域遺産」、平和と国際理解「非戦 先人が求めた世界」、青年とともに「伸びようユネスキャン」があった。）岐阜の平井花画会長がパワーポイントを使って活動事例報告をされた。三木市ユネスコ協会でも独自に特定の寺小屋を作ろうとの声がある中で東山ユネスコ協会（岩手）のネパー

ルでの取り組みは大いに参考になると思えし、また問題点も知った。この運動に一生懸命取り組んでおりながら、同じネパール国内で寺小屋運動を進めながら、相互の情報交換や連携がなされていなく横のつながりが欠如して成果や問題点を共有できていないこと、後々のフォローがないため識字教育が宝の持ち腐れのまま忘れられるといった衝撃的な現況も聞いた。年を重ね還暦を迎えるというユネスコの働きとしては、また毎年このような大会が開かれているのであればなぜ改善されてこなかったのか疑問も生じた。

また、書き損じはがきそのものが、インターネットの時代、ますます減る傾向にあるのに、今後の資金源の開拓も手付かずの様相であった。書き損じはがきの換金についても問題があることを知った。

私たち3人は最前列で聞き入ったが、すぐ近くで終始大胆に舟をこぐ青年がいて、この大会全体に若者や中間層が少なく、ここでもこの働きの継承が大きな問題だと知らされた。さらに、全体会や閉会式で、参加の若者の中にはこのような場にもふさわしくないでたちや言葉遣いの人もいて、日本が高い教育水準の国であり、経済的にも世界のトップを行くまでになっている豊かさの中で、与え手になっていながら、教育文化の面で、とても世界のお手本になれない現状を突きつけられた気がした。世界を見渡すと同時に、足元の青少年教育、この国の文化の啓蒙・啓発が欠かせないのでは、と。マータイ女史の「モッタイナイ」がここでも聞かれたが、もったいないのもうひとつの側面、畏れ多いという礼節や感謝に通じる教育でなければと。

往復の空路は日本アルプスのすばらしい眺めや、拉致被害者の痛みを覚える新潟の海岸線や佐渡島も見えた。空港では仁侠映画のシーンのようなたくさんのその筋の人たちを、また機内では瀬戸内寂聴さんをお見受けした。

花巻でユネスコ運動のすばらしさと、足りなさや問題点も見聞してることができた。温泉と非日常の満喫と背中合わせで。感謝。

追記 3人で昼食をとった和食の店で会長は名物「そばはっと」なるものを注文。閉口しておられた。貧しかった昔の東北でそばはぜいたく品として一般の人には御法度だった由。禁止令を逃れる方便で広まったきしめん状の「そばもどき」である。忘れがたいひとこまとなった。

専門委員会報告2「企画委員会」



民間ユネスコ運動の日

募金へのご協力、51,607円!

—ご協力に感謝申し上げます

1947年7月19日、民間ユネスコ運動が世界に先駆けて日本で始まったことを記念する日が「民間ユネスコ運動の日」です。

本年、三木市ユネスコ協会では、募金活動を展開いたしました。午前中は、三木市庁舎前をお借りして活動し、夕方は、この日三木市文化会館で行われた広島・長崎の原爆被害者の方々の手記を朗読する朗読劇「この子たちの夏」の会場入り口をお借りして活動させていただきました。

多くの皆様のご協力を得て、「51,607円」もの募金を集めさせていただきました。この募金は、ユネスコ協会が推進する、世界の国々の子供たちの教育支援を行う「世界寺小屋運動」に寄付させていただきます。

活動に参加いただいた皆様、募金にご協力をいただきました皆様、本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

企画委員会 高橋昭一

三木市ユネスコ協会ホームページもよろしくお願いします



三木市ユネスコ協会では、活動などの情報をホームページで公開しています。

www.miki-unesco.jp

情報を自由に書き込んでいただける「掲示板」も設置しています。ユネスコ協会関係だけでなく、みなさまのコミュニケーションの場としてぜひご活用ください。

世界寺子屋運動、世界遺産活動、地域交流活動などの詳細情報も掲載しています。

三木市ユネスコ協会今後の活動計画

☆近畿ブロックユネスコ活動研究会参加 10月28日(土) 場所:滋賀県長浜市

☆エコツアー2006年 11月11日(土)

テーマ「エコ・エネルギーを体験しよう! 菜の花エコと風力発電」
行き先:あいとうエコプラザ「菜の花館」、くさつ夢風車

☆合併1周年記念 市民ふれあいまつりに参加 11月26日(日)

ユネスコ活動への勧誘→募金、バザー、ビデオ放映、ポスター展示など

☆異文化交流の会 2007年2月頃開催予定

“中国”の方々と交流しましょう

三木市ユネスコ協会・入会のご案内

会費(年額)

| | | |
|-------|------|---------|
| 個人 | 一般会員 | 3,000円 |
| | 維持会員 | 5,000円 |
| | 賛助会員 | 10,000円 |
| 団体・法人 | 一口 | 10,000円 |

お申込み方法

事務局(三木市教育委員会 生涯学習課)にユネスコ専用の郵便振込用紙があります。必要事項を記入の上、会費をそえて郵便局で振り込んでください。事務局にはユネスコに関するパンフレットもありますぜひお読みください。

連絡先: **三木市ユネスコ協会**

〒673-0492 三木市上の丸町10番30号
三木市教育委員会 生涯学習課内
TEL:0794-82-2000 内線 3541